

- 実施主体 横川洋（九州共立大学総合研究所客員研究員）
- 実施場所 阿蘇地域市町村の畜産農家、牧野組合、
振興局・市町村担当課など
- 実施期間 平成27年4月～平成28年3月



◇背景・ねらい

重要文化的景観としての選定と世界文化遺産の認定を獲得するためには、文化的景観の形成、維持、保全に貢献するような生態調和的草地畜産経営の営みが求められる。まず重要文化的景観にふさわしい草地畜産経営へのパラダイム転換を理論的に整理し、転換に向けての芽ばえを発見し、その展開に必要な条件の整備などを、理論的、実態分析的、政策論的に整理する。

阿蘇地域は周辺地域に比べて恵まれた環境条件にあり、阿蘇地域が草地農業を軸に未来農業のモデルとなるためには、重要文化的景観選定と世界文化遺産登録をめざす活動が非常に良いきっかけとなることを証明する。

◆実施概要

1. 理論研究：申請者が阿蘇草原再生に関連して活動させていただいた阿蘇文化的景観検討委員会で学んだ文化的景観という視点を、さらに深く学習するために近年の文化的景観論の多数の専門書を読み込んだ。また、並行して進めていた科学研究費による共同研究の一環として農文化論や六次産業化論などの関連文献を読み込んだ。
2. 実態研究：直接に農家調査などを行う機会は少なかったが、草原再生協議会牧野管理小委員会及び若手農業者意見交換会に全回参加して、議論を交わし、若手農業者意見交換会のテープ起こしに協力して、牧野管理の諸問題の理解に努めた。また、各種講演会などに参加して認識を深めた。

◆実施体制

牧野管理小委員会の事務局であるグリーンストックとの連携を保った。また、高橋佳孝委員長とは常時意見を交換した。

◆成 果

- ・ 科研メンバーによる共著書の原稿を編集中である。
- ・ 横川洋・高橋佳孝共編著：『阿蘇地域における農耕景観と生態系サービス—地域価値の再発見を通して世界文化遺産登録を支援する—』、平成28年中に出版予定。

◆実施者の感想

熊本地震の阿蘇での震災が大きいため、28年度の研究活動が一時中断している。このため27年度の研究活動からの展開が思うように進んでいないが、当面は上記のように、共著書の編集作業に専念したい。阿蘇の復興も進行中なので、この出版が一区切りついたら、28年度研究の再開と29年度以降の研究活動の展望が開けるものと期待している。